



ロータリーはみんなを幸福にする

2022-23年度

国際ロータリー会長

ジェニファー E. ジョーンズ

第2600地区ガバナー 上沢 広光

国際ロータリー第2600地区 上田六文銭ロータリークラブ Rokumonsen Rotary Club

【事務局】〒386-0025 長野県上田市天神 4-24-1 上田東急REIホテル 3F

TEL 0268-25-6000 FAX 0268-25-6002 <http://www6.ueda.ne.jp/~ueda6rc/>

《例会日》毎週火曜日 12:30~13:30 《例会場》上田東急REIホテル 2F 《創立》1997年2月18日

●会長 齊藤恵理子 ●幹事 中澤 信敏 ●出席・会報・ニコBOX委員長 生川 秀樹 ●副委員長 杉山 裕 ●委員 小嶋 修一 / 宮原 宏一

写真協力：上田市マルチメディア情報センター

例会日誌

- 司 会 齊藤 仁君
- 開会点鐘 齊藤恵理子君
- R ソング 「我らの生業」
- ゲスト

上田市
文化スポーツ観光部
文化政策課
主査 弓掛 拓人様



- 委員会報告
- 「次年度運営アンケート」ご協力をお願い
会長エレクト
清水 一典君



齊藤恵理子君 弓掛様、本日は宜しくお願ひ致します。G7 が終了しました。核廃絶と平和を願います。

中澤信敏君 桐生赤城 RC 交流会に向け、上田の日本遺産について学んでおきましょう。

齊藤 仁君 寒かったり、34℃だったり、これが5月？って思います。

合原亮一君 小さな田んぼはだいたい終わりましたが、大きな田んぼはこれからです。早く代掻きしなくては・・・。

吉田 穰君 今日は日本遺産について勉強させていただきます。

青木丈典君 週末の交流ゴルフコンペ、メンバー、天気共に恵まれ楽しく過ごせました。

笠原 一洋君 北村 久文君 小嶋 修一君
松澤 一志君 宮原 宏一君 西澤 尚夫君
田中 栄一君 横沢 正君 清水 一典君
飯島 伴典君

幹事報告



中澤 信敏君

1. 地区事務所より
 - ・ R Y L A 開催のお礼
2. うえだミックススポーツクラブより
 - ・ 世界選手権大会出場報告会開催のご案内

ニコニコ BOX 喜投額 5/23 18,000 円
今年度累計 604,002 円 67.11%

出席・ニコ BOX 報告

宮原 宏一君

	ベース	欠席	メイク	出席率
本日	24	5	0	79.17%
前々回	20	5	2	85.00%

6月13日例会予定

ゲストスピーチ
上田地域広域連合消防本部
上田中央消防署 馬場 雅彦 様



出前ときめきのまち講座



～日本遺産について
学ぼう～

上田市文化政策課

弓掛 拓人 様

レイラインがつなぐ「太陽と大地の聖地」

～龍と生きるまち 信州上田・塩田平～

認定ストーリー

信濃国分寺から生島足島神社、別所温泉を通るレイライン（夏至の朝、太陽が日の出の際に地上につくる光の線）沿いに多数分布する神社仏閣や雨乞いの祭り等に見られる様々な「祈りのかたち」を題材とし、降水量が少ない風土で身近な山々に宿る龍神と密接に関わってきた塩田平の人々の暮らし等について、ストーリーにまとめました。

ストーリーの概要

独鈷山と夫神岳から扇状に開ける地・塩田平は、古来「聖地」として、多くの神社仏閣が建てられている。

山のおもとにある信州最古の温泉といわれる別所温泉、「国土・大地」を御神体とする「生島足島神社」、「大日如来・太陽」を安置する「信濃国分寺」は、1本の直線状に配置され、レイラインをつないでいる。



夏至と冬至に、鳥居の中を太陽の光が通り抜け、神々しくぬくもりのある輝きを享受できるのだ。

先人たちが、この地が特別であると後世に伝えようと遺した様々な仕掛けは、今も、訪れる人びとにパワーをチャージさせる。

ストーリー詳細

■信州の学海

上田は、険しい山々に囲まれた盆地ゆえに、本州では一番雨の少ない地だ。

「おてんとうさま」が毎日のように微笑み、穏やかな気候という特徴は、信濃国分寺が置かれたこと、鎌倉北条氏の一派が終の棲家としてここを選んだ理由でもある。

塩田平には数多くの寺社が建てられ、中国の高僧や多くの学僧が訪れたのは、山を背に構える別所温泉があったことが大きい。

豊かな湯で心まで洗われる温泉の楽しみがあったからこそ、僧たちは、この地を訪れたのであろう。



別所温泉にある安楽寺を訪れてみると、薄暗い木立の中、見上げるように階段を登った先に、日本唯一の木造八角三重塔が目飛び込んでくる。「四重塔」にも見える不思議な形だ。

思議な形だ。

また、北向観音堂は、善光寺と「両参り」すると御利益が増すという。境内の手水（ちょうず）までも温泉を使い、湯煙が立ち上る境内には温泉の匂いが漂う。この地が僧たちにとって「特別な場所」であり、「別所」と名付けられたことも納得できる。湯煙が漂う地に花開いた仏教文化の遺産は、湯浴みの効能のみならず、訪れる人びとを癒している。

■神宿る「山」への祈り

上田の雨が少ない気候は、風雨が引き起こす災いからこの地の暮らしを守ってきた。しかし、それゆえに神は時として干害などの試練を課してきた。

人びとは水源となる山々に神を崇め、祈り、恵みの雨を願った。



500年以上も続く雨乞いのまつりである「岳の幟（たけののぼり）」は、色鮮やかな幟が特徴的だ。

「下り龍」を描いた幟で、夫神岳山頂に祀られた「龍」オカミ」と呼ばれる九頭龍神を山麓の別所神社までお連れする。

龍が宿るこの山は、山菜や松茸など、山の幸をはぐくみ、マツタケ小屋の隆盛につながっている。

■未来への懸け橋

このように塩田平には、この地を特別な「聖地」とする景観が遺されている。国土・大地を祀る「生島足島神社」、「大日如来・太陽」が安置された「信濃国分寺」。

生島足島神社は夏至には太陽が東の鳥居の真ん中から上がり、冬至には西の鳥居に沈む。太陽と大地は、この神秘的な光景をレイラインとして現代に遺した。

そして、この「太陽と大地の聖地」に重なるように遺したもうひとつの景観が、100年前から守り続けてきた鉄道・別所線だ。

生島足島神社から、別所温泉までの軌道は、不思議なことにレイラインと一致する。そして、駅をつなぐ線路は、空からみると龍のかたちをしていると言われる。

塩田の人びとは龍を特別な神として崇め、祀り、龍とともに生きてきたことを、別所線の軌道に投影して大切に遺してきたのだ。

龍の背に乗ってめぐる「太陽と大地の聖地」は、これからも、まぶしいばかりの輝きとぬくもりをもって、訪れる人の心に光を与えてくれるだろう。

